

令和7年度

第2回 滝川市地域包括支援センター運営協議会

(書面会議)

次 第

議事

- 1 令和7年度 第2回滝川市地域包括支援センター運営協議会
報告内容要旨(1頁)
- 2 令和7年4月～9月 滝川市地域包括支援センター活動報告
について(2頁～7頁)
- 3 令和6年度 高齢者実態調査結果報告について(8頁～9頁)
- 4 令和7年4月～9月認知症初期集中支援チーム
活動報告について(10頁～11頁)

令和7年度 第2回 滝川市地域包括支援センター運営協議会 報告内容要旨

令和7年4月～9月 滝川市地域包括支援センター活動報告について

- 年度当初の計画に基づき、通常通り業務を継続して実施している。また、市民が参加する事業については、近年の酷暑を鑑み、開催時期に配慮して日程を設定し、会場の選定や内容なども配慮して開催できている。
- 総合相談については、ほぼ前年同様の相談件数となっている。
- 介護予防支援・介護予防ケアマネジメントについては、計画作成件数は微増しており、介護予防支援の割合が多くなっている。
- 認知症関連事業では、これまでチームオレンジの活動は、職員が企画・準備を行い、サポーターは指示を待つ受身の参加が多かったため、企画の段階から主体的に参加していただくよう働きかけた。認知症ご本人のやりたいことの実現を目指す「すまいるゴー」のバスレクリエーションについて、行き先や内容の検討、下見の際に確認することなど、1つ1つメンバーで相談して決めていった。また、子育て世代に認知症について普及啓発を図るための「積み木」づくりでは、できあがった積み木を9月の認知症月間に市役所ロビーで配付、14名の乳幼児に認知症ご本人が直接手渡すことができ、やりがいを感じる機会となった。
- 高齢者権利擁護研修会、ケアマネージャー他介護職員向けの事業所ネットワーク研修会も、予定通り集合研修で開催した。

令和6年度 高齢者実態調査結果報告について

- 別紙資料 ○まとめ 参照

令和7年4月～9月 認知症初期集中支援チーム活動報告について

- 検討事例の無い月は会議を休止し、会議開催は計2回の会議、新規ケース3事例の事例検討と支援計画作成、以前検討を行った事例の経過報告と対応の確認を行った。
- 今回は、3事例中2事例が子や孫と同居している事例、残りの1事例は夫婦世帯だが共に認知機能の低下がある事例だった。認知症の対応が、同居家族の仕事や日常生活にも影響してくるため、丁寧に聞き取りを行い、対応について提案していった。今後も、認知症本人を取り巻く家族にも目を向け、必要時は他機関と連携して対応していくこととする。
- チーム員活動は、複数で関わり、本人と家族それぞれの話を聞いた上で、チーム員会議での検討結果に基づき役割分担して対応することとなる。すでに担当ケアマネージャーがついている事例や、総合相談で職員が対応している事例などでも、対応が難しく困難な事例については、チームの活用を積極的に勧めていきたい。

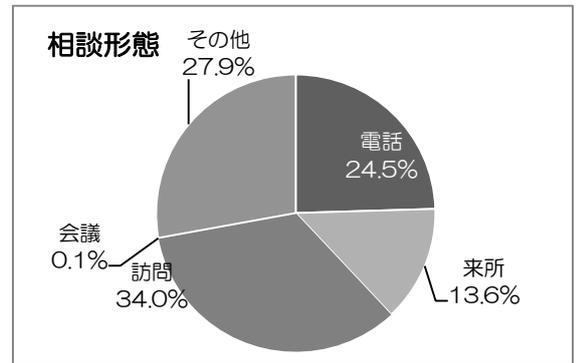
令和7年4月～9月滝川市地域包括支援センター活動報告

1. 総合相談支援

高齢者が住み慣れた地域で、安心して生活を継続できるよう介護サービスにとどまらない、保健医療福祉の機関又は制度の利用につなげる等の総合的な支援を行った。

(1) 相談件数 (単位：件)

7年度 前期	1,188
6年度 前期	1,105



(2) 相談形態 (単位：件)

	電話	来所	訪問	会議	その他	合計
7年度 前期	291	161	404	1	331	1,188
6年度 前期	321	159	356	1	268	1,105

(3) 相談者区分 (単位：件)

	本人	家族	民生 委員等	地域 団体	医療 機関	警察	実態 把握	その他	合計
7年度 前期	194	180	30	89	50	15	608	22	1,188
6年度 前期	211	177	31	99	80	21	472	14	1,105

(4) 相談内容区分 (重複あり) (単位：件)

	介護日 常生活 相談	医療に 関する 相談	権利擁 護相談	虐待	実態把 握	介護予 防	苦情相 談	SOS 関連	その他	合計
7年度 前期	451	56	15	4	608	84	0	5	70	1,293
6年度 前期	480	83	12	0	473	81	1	2	92	1,224

(5) 対応内容区分 (重複あり) (単位：件)

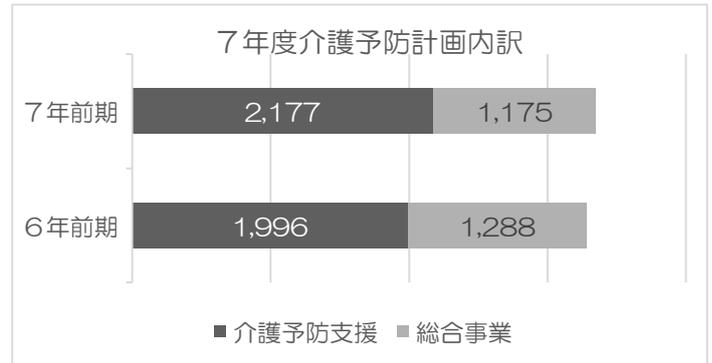
	相談・ 情報提 供	ケース 会議	連絡調 整	家庭訪 問	申請代 行	SOS 関連	調査訪 問	その他	合計
7年度 前期	725	6	343	289	42	1	530	83	2,019
6年度 前期	785	14	616	322	29	0	465	68	2,299

2. 介護予防ケアマネジメント事業

要支援1・2の認定者、総合事業対象者がより自立した生活を送れるために、適切な介護予防サービス等が提供されるよう、予防サービス計画を作成した。

(1) 担当総件数（単位：件）

	包括	委託	合計
7年度前期	3,376	197	3,573
6年度前期	3,233	216	3,449



(2) 予防計画作成実績（単位：件）

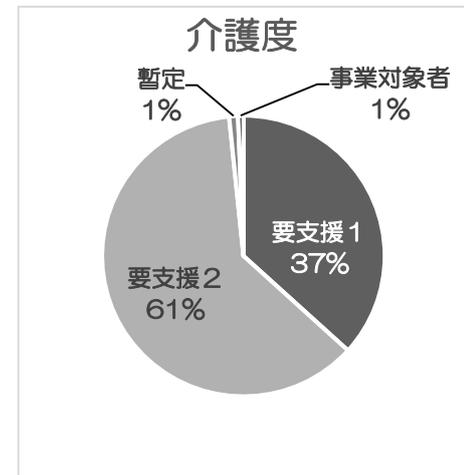
	介護予防支援			総合事業			合計
	包括	委託	計	包括	委託	計	
7年度前期	2,032	145	2,177	1,127	48	1,175	3,352
6年度前期	1,840	126	1,966	1,210	78	1,288	3,254

令和7年度指定介護予防支援・介護予防ケアマネジメントに係るケアプラン作成委託業務事業所（令和7年9月末現在）

- ・有限会社 ケア・コラボレートK・H
- ・医療法人社団青藍会クリニック
- ・医療法人 翔陽会 滝川脳神経外科病院
- ・社会福祉法人 滝川市社会福祉事業団
- ・社会福祉法人 滝川市社会福祉協議会

(3) 介護度（単位：人）

	要支援1	要支援2	暫定	事業対象者	合計
7年度前期	1,314	2,201	36	22	3,573
6年度前期	1,286	2,095	46	22	3,449



(4) 担当者会議開催数（単位：回）

7年度前期	382
6年度前期	365

3. 一般介護予防事業

ますますげんき教室

介護予防チェックリストにより、外出の機会が少なくなり、運動機能などが低下している虚弱高齢者を対象として週1回、血圧測定・健康チェック・百歳体操・ミニ講座（栄養・歯科・転倒防止など）を実施した。感染予防のため短縮していた実施時間を通常に戻して実施している。

ますますげんき教室参加者数(単位：回・人・人)

	開催回数	実人数	延人数
7年度前期	42	28	396
6年度前期	40	27	403

4. 包括的・継続的マネジメント事業

地域の介護支援専門員の指導や支援のほか、高齢者が住みやすい地域にするため、関係機関とのネットワークづくりを行った。

(1) ケアマネジャーの相談窓口

相談件数(単位：件)

7年度前期	4
6年度前期	3

困難事例の相談を受け、対応を検討した。

(2) 関係機関ネットワーク会議

在宅・施設・医療等の関係機関に呼びかけ、相談員・介護支援専門員が参加。偶数月の水曜日に定例で情報交換・事例検討を行う他、関係者向け情報提供、事業所間の情報交換をオンライン会議で開催した。

関係機関ネットワーク研修会を開催した。

実施日	テーマ・講師	参加者
8月1日	講義：生活困窮者の暮らしを支えるために知っておくべきこと ～生活困窮支援の現場より～ NPO 法人コミュニティネットワーク研究実践センター そらち生活サポートセンター 理事長・所長 穴澤 義晴氏	32人

(3) 地域ケア会議

- 自立支援型ケア会議（自立支援サポート会議）を開催し、地域の多様な専門職の助言により、幅広い視点から、その人らしい普通の生活を営めるような具体的な支援を検討した。（4回8事例）
- 地域の個別事例を通じて、地域課題を見つけ解決につなげる、地域ケア個別会議を1回1事例実施。度々体調を崩して倒れることがある独居高齢者について、ご本人、民生委員、町内会長、関係者間で情報共有を行い、今後の関わり方について確認した。

(4) 在宅医療・介護連携推進事業

- 在宅医療と介護の連携に関する地域の課題を抽出し、その対応策を検討することを目的に、市内の医療、介護に関する関係者が集まる推進会議を開催。事例検討等を通じて、課題の共通認識を図り、課題解決へ向けての対策を検討する。上半期の会議開催なし。

(5) 生活支援体制整備事業

- 高齢者が増加する中、多様な生活支援・介護予防サービスを利用できるような地域づくりを目指し、生活支援コーディネーターが生活支援体制整備事業の基盤づくりとして、他地域のコーディネーター

との情報交換やオンライン研修会へ参加、認知症事業への協力・参加、地域の通いの場へ出向いての情報収集を行った。

- ・地域の高齢者がいきいきと健康で過ごすための場所となる「通いの場」を冊子にまとめた「地域にある通いの場一覧」を、市民や関係機関に情報提供し、活用を促した。(配布部数 2,000 部)
- ・高齢者が通う通いの場や認知症事業と、ボランティア参加を希望する学生をつなぐ「学生ボランティア『チアフル』」を行った。

生活支援コーディネーター活動状況 (単位：人)

	生活支援体制整備事業							認知症総合支援事業		合計
	① 1・2層 協議体	② 3層通 いの場 情報共 有ほか	③ 地域相 談・情報 共有	④ 他市町 村・庁舎 内など 情報共 有	⑤ 学生ボ ランテ ィア・高 香連携 事業	⑥ 会議・研 修	⑦ 情報発 信	⑧ 事業・会 議・研修 ほか	⑨ 情報発 信	
7年度 前期	17	44	8	12	78	152	6	111	6	434
6年度 前期	17	67	5	10	48	63	7	166	11	394

※生活支援コーディネーター2名体制で活動。

5. 認知症対策関連事業

(1) 物忘れ相談プログラムによる認知症チェック

物忘れ相談プログラムを活用し、物忘れの自己チェックや認知症に関する知識の普及啓発を図る。来所と訪問による個別対応で実施した。

物忘れ相談プログラム実施数

令和7年度前期 訪問相談 33人 来所相談 2人
令和6年度前期 訪問相談 32人 来所相談 10人

(2) 認知症カフェの開催

認知症の人やその家族、地域住民、専門職が、気軽に集まり認知症や介護について意見交換できる「認知症カフェ」を市内のグループホーム、ボランティア団体、家族会の協力で開設。

認知症カフェ参加数 (単位：回・人)

	カフェ あけぼの		駅カフェ・陽 だまり		合計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数
7年度 前期	12	263	12	363	24	626
6年度 前期	12	194	12	258	24	452

介護事業所主催のカフェは休止中。

(3) 認知症啓発月間活動

- ・認知症普及啓発イベント「おれんじフェスタ」を実施した。

9月6日 三世代交流センター 参加人数 238人

- ①ほっかいどう希望大使 (認知症本人大使) 松本健太郎さん紹介動画上映会(NPO 法人 中空知地域で認知症を支える会) 42人
- ②わんわんパトロール PR (包括)
- ③認知症クイズ (包括) 89人
- ④認知症について、認知症事業紹介 (包括)
- ⑤チームオレンジ「星形スティックづくり 35人・ヨーヨー釣り 50人」(包括、チームオレンジ)

- ⑥フォトコーナー（滝川西高美術部）
- ⑦ロバ隊長に変身！工作コーナー（包括、チアフル）
- ⑧ゲームや体験コーナー（包括、ケアLabo）
- ⑨ダレデモダンスエクササイズ（Takikawa Y's-SDC）30人
- ⑩ハーバリウムづくり（滝川市ボランティアセンター）27人
- ⑪顔と名前で国際交流（企画課国際交流員）
- ⑫らいらっく手作りマーケット（医療法人社団青藍会訪問リハビリテーションらいらっく）
- ⑬滝川市老人クラブ連合会手作りマーケット（滝川市老人クラブ連合会）
- ⑭お菓子詰め合わせ（NPO 法人 風汐 トータルサポート リアル）95 個販売
- ⑮脳トレコーナー（滝川地区認知症の人と歩む家族の会 あげぼの会）
- ⑯カフェ陽だまり（江部乙まちづくりコミュニティ行動隊女子部）飲み物 90 杯、パン 120 個販売
- ⑰焼きそば 80 個、フランクフルト 60 個販売（NPO 法人 若草友の会共同作業所）

- ・子育て世代の方にも認知症に関する理解を深める機会として、チームオレンジ（本人・サポーター）が、関係機関の協力のもと、学生ボランティアや国際交流員とともに「積み木」作成に取り組み、認知症ご本人が直接乳幼児に配布した。来場者 14 人
- ・看護学生と看護・介護に興味のある高校生を対象に認知症普及啓発イベントボランティア「ケア Labo」を募集し、多世代への認知症の理解と普及啓発活動を行った。
参加学生 16 名（滝川高校 5 名、滝川西高生 6 名、滝川市立高等看護学院生 5 名）
実施回数 3 回

（４）認知症サポーター養成講座

認知症について、研修を修了したキャラバン・メイトが、認知症についての理解と地域での見守り支援の普及啓発の為、認知症サポーター養成講座を実施。
各種団体の依頼に応じ実施した。
今年度前期で 2 回開催、計 59 人参加

（５）オレンジ倶楽部

認知症サポーター養成講座を受講した方の中で、継続して情報収集を希望される方を募り「おれんじ通信」を発行し、認知症の知識や認知症に関する活動を紹介した。
「おれんじ通信」の発行（7 月）

（６）チームオレンジ

認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座を受講し、活動への参加を希望された方を対象に、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指して、認知症ご本人やご家族と一緒に考え楽しむ活動（認知症本人の会「すまいる」、コミュニティ農園畑楽など）に取り組んだ。活動には専門職（保健師・社会福祉士など）も参加。
「チームオレンジ便り」の発行（4～9 月 月 1 回発行）
認知症ご本人とチームオレンジサポーターが、「すまいるゴー」の活動計画を立てたり、普及啓発用の積み木づくりを行いながら交流する場として「オレンジの会」を開催した。

オレンジの会

	本人	サポーター	国際交流員	職員	内容
第 1 回	5	15	3	5	バスレクリエーションで行きたい場所を決める
第 2 回	4	12	4	5	事前の下見で確認することを出し合う
第 3 回	3	9	3	5	バスレクリエーション当日の内容を決める

（７）認知症本人の会「すまいるゴー」

若年認知症の方と高齢者の軽度認知症の方を対象とした、認知症本人の会を開催した。
物忘れが心配で引きこもりがちにならないように、認知症本人が実施したいことの実現を目指す。
チームオレンジがパートナーになりバスレクリエーションを計画し実施した。
参加者 26 名（本人 5 人、チームオレンジ 16 人、国際協力員 3 人、職員 8 人）

（８）コミュニティ農園畑楽^{はたらく}

介護サービスにつながっていない若年性認知症の方と高齢者の軽度認知症の方とご家族を対象とした、コミュニティ農園を実施した。学生や就労しているボランティアが参加しやすいよう、土曜日

にも開催した。

コミュニティ農園畑楽 実施状況（単位：人）

	本人	家族	ボランティア	学生・教員	国際協力員	職員	計	内容
第1回	4	0	12	10	4	6	36	苗、種植え
第2回	4	0	13	0	4	7	27	間引き、野菜収穫
第3回	3	0	9	3	0	6	22	収穫他
第4回	4	0	9	0	3	6	22	収穫、試食他
第5回	4	0	14	0	2	6	26	収穫、試食他

(10) 滝川市見守りキーホルダー

認知症によって行方不明となるおそれのある高齢者などの安全を確保し、ご家族や介護する方の負担を軽減することを目的に「見守りキーホルダー」の配布を行った。（令和7年度 配布数19個）

(11) 滝川市わんわんパトロール

犬の散歩をしながら認知症高齢者を見守り、行方不明者の早期発見につなげる「わんわんパトロール事業」を開始した。登録者にはわんわんキーホルダーを渡し、散歩時持ち歩いてもらう。（令和7年度新規登録者11人）

6. その他の事業

(1) 家族介護者の支援

介護者サロン

家庭で認知症等の介護を行う介護者に対し、介護に関する知識の提供及び介護者同士の交流を通し、心身のリフレッシュ・介護者の疲れの軽減・介護者の悩みの軽減を図ることを目的に開催。介護者とは別室で被介護者を預かる託者も行い、介護者が参加しやすい体制づくりに努めている。

介護者サロン実績（単位：人）

	介護者	被介護者	オレンジ倶楽部	内容
第1回	8	3	13	ハンドケア・マッサージの体験
第2回	8	3	13	蓄音機で音楽鑑賞、交流会
計	16	6	26	

(2) 成年後見制度の申し立て支援

市長申し立てに関する相談は2件。市長申立件数はなし。

(3) SOSネットワークシステム

徘徊による行方不明者をすみやかに搜索・発見するためのネットワークの構築。現在の登録実人数は110人。うち、今年度前期新規登録者は19人。搜索依頼3件、2名は無事発見、1名は死亡で発見

(4) 滝川市はいかい高齢者等位置探索システム助成事業

今年度前期における新規申請なし。

(5) 高齢者虐待の相談支援 2件

親族、警察署からの相談。事実確認を行い、関係機関とともに見守りながら経過観察中。

(6) 出前講座

市民や関係機関の依頼に応じて、高齢者福祉・介護予防等に関する講座を実施。

・6月11日 認知症の症状と接し方 滝川市民生委員児童委員連合協議会 14人

(7) 地域リハビリテーション活動支援事業

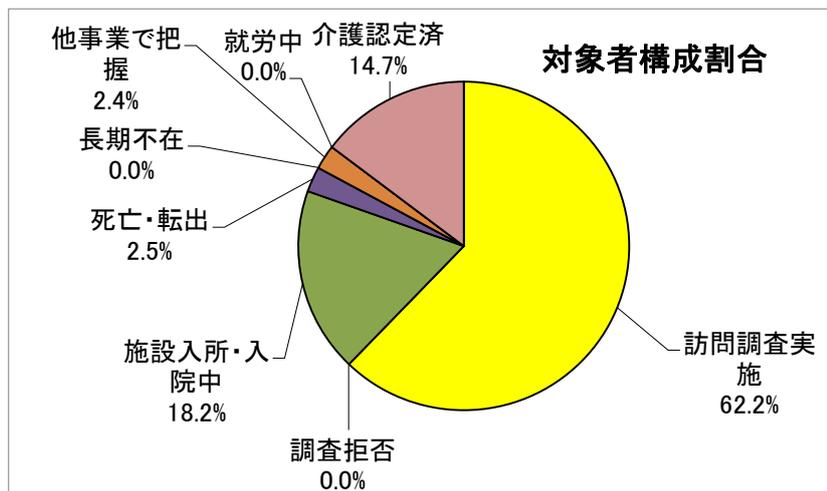
今後の介護予防の体制に活かし連携を深めるため、「北空知地域医療介護連携支援センター」のリハビリテーション専門職の取り組み視察を行い、訪問活動や介護予防について情報を得た。

令和6年度 高齢者実態調査 結果報告

- 75歳以上総人数(令和6年4月現在) 7,689人
- 調査実施地区の75歳以上総人数 (令和6年度) 1,252人
- 調査実施地区 緑町・中島町・空知町・新町・明神町・栄町・花月町

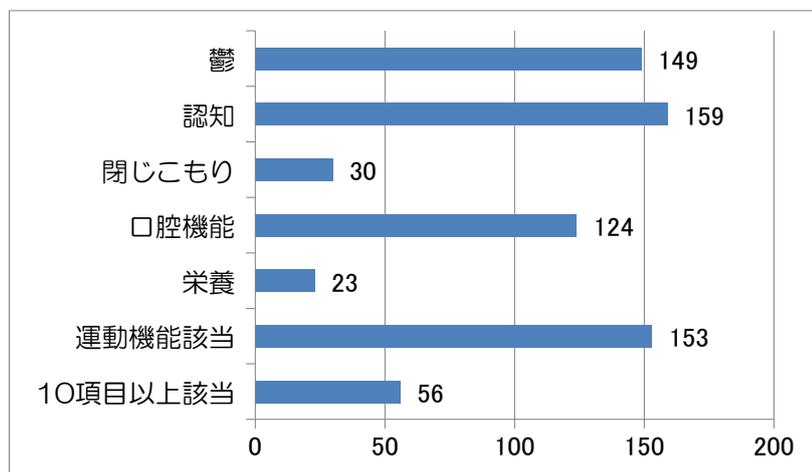
○対象者構成割合

	人数	世帯数	内訳			
			単身世帯	夫婦世帯	その他	不明
訪問調査実施	779	631	198	156	140	137
調査拒否	0					
施設入所・入院中	228					
死亡・転出	31					
長期不在	0					
他事業で把握	30					
就労中	0					
介護認定済	184					
総計	1,252					



- ・世帯構成に関係なく、令和6年4月1日現在満75歳以上の人を対象に訪問調査を実施。介護サービス利用や入院・施設入所が明らかな場合は訪問調査対象外とした。

○二次予防事業対象者内訳 実数 334人 (調査実施者数の 42.8%)



内訳(重複あり)	人数
10項目以上該当	56
運動機能該当	153
栄養	23
口腔機能	124
閉じこもり	30
認知	159
鬱	149

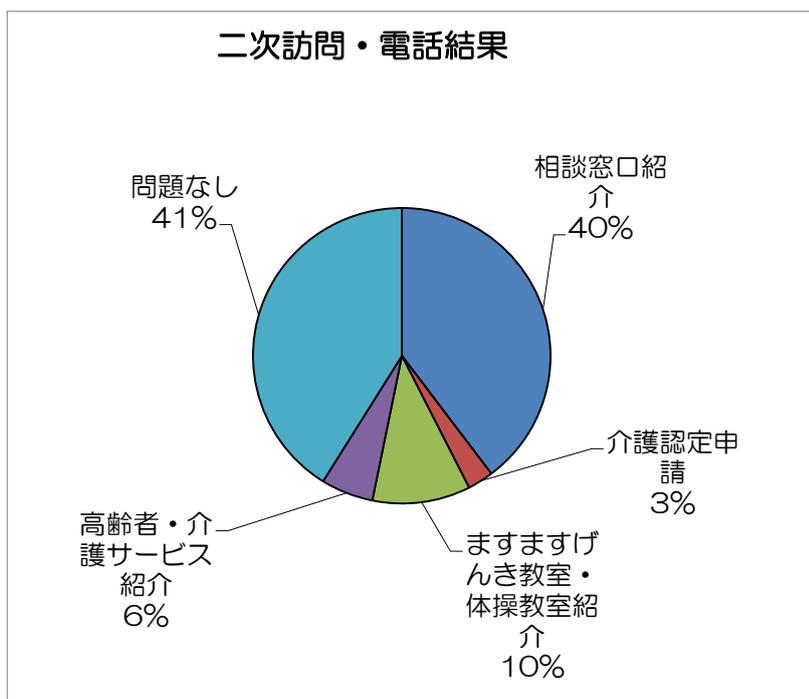
認知機能、運動機能、鬱の順で該当者が多い。

○二次予防事業対象者の発見率

	調査実施数(人)	二次予防事業対象者(人)	発見割合
実態調査	779	334	42.9%

○二次訪問・電話

二次予防事業対象者のうち、介護予防事業(ますますげんき教室・地域体操教室)通所の必要性がある人、介護・高齢者サービスの利用希望者、調査員が気になったケース141人に対し、地域包括支援センター看護師が訪問・電話かけを実施。



内訳	人数
訪問	47
電話	94
計	141

結果	人数
相談窓口紹介	56
介護認定申請	4
ますますげんき教室・体操教室紹介	15
高齢者・介護サービス紹介	8
問題なし	58
計	141

○まとめ

- ・事前に調査票を対象者宅に投函し、後日、回収する方法で調査を実施した。
- ・投函時に対面し回収日を伝えることで、調査訪問時の警戒心や不信感なくスムーズにすすめられている。事前に調査票が記入されていることで、玄関先での聞き取り時間が省けて効率的な調査ができています。
- ・訪問を実施した779名のうち84名(10.8%)は就労していた。
調査対象地区が商業地区や市街地であったため、自営業を継続している高齢者が多い印象であった。
- ・気になる対象者には訪問や電話確認により状況把握を行った。
- ・調査訪問時に地域包括支援センターのパンフレットを配布し相談窓口の紹介をしており、パンフレットを通じて後日、家族から相談を受けることもあり、介護認定申請や一般介護予防である体操教室への参加、関係機関への相談につながっている。
- ・今後も、他部署との連携、見守り安心ネットワーク協力団体との協力による緩やかな見守り体制の充実を図りながら、より一層の早期発見・対応と相談窓口の周知を続けていく。

令和7年4月～令和7年9月 認知症初期集中支援チーム活動報告

1. チーム員会議の開催

会議実施数（単位：回・件）

	回数	検討事例数
令和6年度前期	3	3
令和7年度前期	2	3

事例の状況

	年齢	性別	世帯構成	相談者	支援経過
5月	73歳	女性	同居 (夫・長男・長女・長男の子)	長男	過去に若年性認知症と診断を受けたが、医師と折り合いが合わず受診中断。その後症状進行し、対応方法が分からないとの相談。介入後、滝川市立病院精神神経科に受診。認知症が進行しており、治療対象とはならなかったが、介護認定の申請をした。小規模多機能の利用を促すが金銭的な理由もあって利用に至らず。10月から通所介護の利用を開始。居宅に対応引き継ぎをした。
5月	77歳	男性	同居(妻)	居宅ケアマネ	認知症の妻との二人暮らし。対象者自身も以前から判断力の低下や意思疎通の難しさがあったが、支援には繋がらない状況だった。介入後、妻の認知機能低下が進行し、対象者が十分に妻の介護が出来ない状況である事を確認。家族や居宅ケアマネと連携し、夫婦ともに7月に入院。現在は夫婦で施設入所をする事になった。
8月	85歳	女性	同居 (長男・長女の子)	長女	別居の長女からの相談で対応。本人と同居の孫と面談。本人と孫との関係は良好で、在宅生活や受診継続は孫の介護が継続できるうちは問題ない状況。 チーム員会議後、介護認定の更新を機に継続介入を試みたが、長女より、長女の求めた対応ではないため、今後の介入はしないようにと拒否があり、対応見合わせ。

医療受診について(単位：件)

すでに受診済	1
認知症と診断	2
現在の受診科で経観	0

支援結果(単位：件)

支援終了	3
継続支援	0

継続支援状況

検討後の事例について、家族やケアマネージャー等と連絡調整しながら、訪問・受診同行等の支援を実施。

実件数 3件、延件数 8件

2. 普及・啓発活動

リーフレットは、介護福祉課の窓口に設置する他、市内医療機関、高齢者実態調査の訪問時に配布。

市ホームページ内でも事業周知を実施。

地域包括支援センターのパンフレットの中に「認知症の方と家族を支える取り組み」の一つとして掲載。